












情報連絡員だより

－平成31年3月分の報告より－

多くの業種で人手不足が顕在化

業種 / 景況天気図		概況
全	体	 <p>多くの業種で人出不足が顕在化し、悪影響を及ぼしている。製造業では、窯業・土石製品やその他の製造業において、設備稼働率の低下を招いている。非製造業は、この時期特有の年度末・新入学需要などにより天気図が「曇」に回復した一方で、運輸業においては引越し需要に対応できないなどの問題が発生している。</p>
製 造 業	食料品	 <p>パンは、天候が安定したことで売上増加。菓子は、前半の動きは鈍かったが、後半に勢いを取り戻し前年並み。製麺は、商品価格の値上げ交渉が難航し厳しい状況が続く。酒造は、吟醸酒等の特別名称酒が好調となり、売上・収益ともに増加。食肉は、豚のと畜頭数や枝肉カット数は増加したが、安値相場のため売上減少。</p>
	繊維・同製品	 <p>桐生織物は、婦人服地と輸出向けに大きな動きはみられないが、夏物の和装織物に期待感。伊勢崎織物は、厳しい状況が続いているが、広巾織物が好調を維持。ニットは、夏物の生産が終わり、早くも冬物のサンプル生産に取り掛かる組合員も散見。繊維製品は、企業間のコラボなど、売上増加につながる取組みを検討中。</p>
	窯業・土石製品	 <p>コンクリートブロックは、従業員不足により工場の稼働率低下、外国人材の雇用を検討。生コンは、都市部において不調、中山間地域において出荷順調となり前年並み。砕石は、八ッ場ダム関係の実績が前年を下回り、売上・収益ともに減少。砂利も、出荷量減少や販売価格上昇が浸透せず、売上・収益ともに減少。</p>
	機械・金属	 <p>電機関連・鍍金は、人手不足対策として改正入管法施行による外国人材の雇用に期待している様子が見える。自動車部品は、大型連休を見越して前倒し生産を開始しているが、米中貿易摩擦の影響による輸出減少にて売上減少。SUBARU関連は、リコール問題の影響で生産・販売ともに減少となり業況悪化。</p>
	その他の製造業	 <p>木材は、従業員の確保難により設備操業度が低下している状況。紙加工品は、月後半にやや動き出した感があるものの、全体として売上減少。ゴム製品は、SUBARU減産の影響による売上減少が続く。印刷は、かつてない紙不足の状況が継続し、受注量が落ち込み売上減少、大型連休の影響を懸念。</p>
非 製 造 業	卸売業	 <p>高崎卸団地・前橋卸団地は、売上・収益ともに前年並みに推移。太田卸団地は、働き方改革に対応するための人員増加による利益の減少を懸念。農産物卸は、春物野菜の安値推移と野菜の不振により売上・収益ともに悪化。水産物卸は、今後の市場法改正に対応すべく、抜本的な改革を検討中。</p>
	小売業	 <p>家電小売は、新入学需要が大型店へ流れ売上増に結びつかず。中古車オークションは、出品・成約台数ともに増加し収益好転。燃料小売は、仕入・販売価格ともに値上がりし売上は前年並み。生花小売は、年度末需要があり多忙となったが、仕入価格上昇により前年水準の収益。商店街は、地域間で業況にバラツキがある。</p>
	サービス業	 <p>温泉旅館は、卒業旅行の時期に加えテレビ放映の効果もあり、前月からの好調を維持。前橋市域における不動産取引は一部で良好な推移となるが、全体では地価下落の影響により収益悪化。自動車整備は、売上・収益ともに前年並みに推移。建築設計は、国土交通省の労務単価引き上げによる若手人材確保に期待感。</p>
	建設業	 <p>建設工事は、原材料費等のコスト増が収益を圧迫し先行きに不安感。塗装工事は、消費税増税に伴う駆け込み需要を新年度に期待。解体工事は、テナント撤退に伴う解体工事など年度末需要があり好調維持。鉄構は、ボルトの納期長期化に改善がみられず工期遅延。電気工事は、人員不足に起因する繁忙感が継続。</p>
	運輸業	 <p>全体的に、原油価格上昇の長期化を懸念している。また、人手不足のため、旺盛な引越し需要に対応できない状況となっている。野菜関係は、冬野菜と夏野菜の切り替え時期のため配送量はやや少なめだったものの、前年水準を維持。小口配送は、概ね前年同様に推移、遠方輸送の依頼が増加している状況。</p>